

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人 長岡市芸術文化振興財団	
施 設 名	長岡リリックホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	12,372	(千円)
公演事業	4,864	(千円)
人材養成事業	2,958	(千円)
普及啓発事業	4,550	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	鈴木愛美ソプラノリサイタル	2019年4月20日(土)	出演：鈴木愛美、山岸茂人(ピアノ) 曲目：からたちの花/山田耕作 星の夜/C.ドビュッシー他	目標値	350
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	627
2	文学座公演「ガラスの動物園」	2019年7月11日(木)	演出：高橋正徳 美術：乗峯雅寛 出演：塩田朋子、亀田佳明 他	目標値	360
		長岡リリックホール シアター		実績値	377
3	野村万作・萬斎 狂言会 & ワークショップ	2019年9月4日(水)	出演：野村万作、野村萬斎、 深田博治、高野和憲 他 演目：「柑子」、「呂連」、「首引」(①本公演) ②狂言ワークショップ	目標値	①400 ②350
		長岡リリックホール シアター		実績値	①430 ②440
4	小野リサ コンサート	2019年9月28日(土)	出演：小野リサ、二村希一(ピアノ) 西嶋徹(ベース)、斉藤良(ドラム) 曲目：NIGHT AND DAY、女ひとり 他	目標値	560
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	622
5	第17回澤クワルテットコンサート	2019年11月17日(日)	出演：澤クワルテット ゲスト：ヘンシェル弦楽四重奏団 曲目：メンデルスゾーン/弦楽八重奏曲	目標値	420
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	274
6	横坂源チェロリサイタル	2019年12月1日(日)	出演：横坂源、沼沢淑音(ピアノ) 曲目：ストラヴィンスキー/イタリア組 曲、ラフマニノフ/ヴォカリーズ 他	目標値	350
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	364
7	第18回リリックホールコーラスフェスティバル	2019年12月8日(日)	出演：長岡市内外コーラスグループ 35団体/551人 曲目：出演団体による選曲	目標値	500
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	600
8	リリックジュニアフェスティバル2019	2019年12月15日(日)	出演：オーディションにより選出された小学生から高校生、他 曲目：出演者による選曲	目標値	400
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	376
				目標値	
				実績値	

(2) 平成31年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	三善晃記念 仲道郁代プロデュース「響き合うピアノ」	2019年10月5日(土)～ 2020年2月29日(土)	講師：仲道郁代、桜井しおり 内容：講座・ワークショップ マスタークラス、非公開レッスン	目標値	20
		長岡リリックホール コンサートホール他		実績値	5
2	文学座 演劇活性化事業	2019年7月11日(木)～ 2020年2月2日(日)	出演：植田真介、永川友里、岡本温子、渡辺徹 ほか 内容：舞台美術ワークショップ、朗読会、演劇ワークショップ	目標値	120
		長岡リリックホール他 市内各所		実績値	337
3	長岡少年少女合唱団育成事業	通年	対象：小学生から高校生 内容：週2回の定期練習のほか、演奏会出演など。 講師：中村美智子	目標値	45
		長岡リリックホール スタジオ他		実績値	40
4	ジュニアミュージカル育成事業	通年	対象：小学生から高校生 内容：ミュージカル練習・公演 講師：ミュージカルカンパニー・イツフォーリーズ	目標値	40
		長岡リリックホール スタジオ他		実績値	29
5	ジュニアストリングオーケストラ育成事業	通年	対象：小学生から高校生 内容：月2回の定期練習など。 講師：佐々木将公（ヴァイオリン） 片野大輔（チェロ）ほか	目標値	30
		長岡リリックホール スタジオ他		実績値	24
6	長岡フェニックス合唱団育成事業	通年	対象：一般（公募） 内容：週1回の練習 講師：仲谷響子（合唱指導） 金子陽子（ピアノ伴奏）	目標値	60
		長岡リリックホール スタジオ他		実績値	50
7	1日限りの吹奏楽部 in 長岡	2020年3月15日(日)	※新型コロナウイルスの影響により中止	目標値	50
		長岡リリックホール 全館		実績値	0
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	歌舞伎「太刀盗人」公演	2019年7月24日(水)	出演：半之丞、花柳琴臣、大河寛、藤田隆之 演目：太刀盗人 歌舞伎松羽目物 常磐津連中 他	目標値	600
		長岡リリックホールシアター		実績値	445
2	リリック子ども音楽館 0歳からの東京フィルわくわくコンサート	2019年7月28日(日)	出演：岸本祐有乃(指揮)、塚本江里子(歌・司会) 曲目：ラデツキー行進曲(J. シュトラウスI)、他	目標値	600
		長岡リリックホールコンサートホール		実績値	700
3	東京フィルアウトリーチコミュニティコンサート	2019年5月29(水)～11月1日(金)	対象：長岡市内公共施設 曲目：モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジーク、岡野貞一／ふるさと 他	目標値	2,500
		市内コミュニティセンター等		実績値	1,556
4	地元アーティスト学校アウトリーチ	①2019年7月 ②2019年9月	対象：長岡市内小学校 内容：①声楽 ②室内楽 講師：五十嵐郊味(ソプラノ)、片野大輔(チェロ)、他	目標値	200
		市内小学校		実績値	327
5	リリックママコンサート	2020年3月5日(木)	※新型コロナウイルスの影響により中止	目標値	100
		リリックホール・スタジオ		実績値	0
6	リリックホワイエコンサート	①2019年7月18日(木)、 ②2019年7月22日(月)	出演①：五十嵐郊味(ソプラノ) 出演②：佐々木友子(ヴァイオリン)、片野大輔(チェロ)、他 曲目：①夏は来ぬ、他 ②愛の挨拶、他	目標値	100
		リリックホール・ホワイエ		実績値	359
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>長岡リリックホールは、元芸術顧問・故 三善晃氏の提言「みんなのホール」をコンセプトに、地域に開かれた芸術文化の拠点施設であり、事業の中心に据えているのは、「まちづくりはひとづくり」という人材育成の大切さを説いた長岡藩大参事・小林虎三郎の「米百俵」の精神に基づく、人材育成事業としている。年間を通じて幅広い年齢層の市民に、様々な会場で市民と交流しながら芸術文化に触れる機会を提供した。さらに、合唱、ミュージカル、弦楽器の分野でジュニア育成事業を推進し、子供たちの情操・人材育成に力を入れて事業を組み立てた。</p> <p>演劇、音楽、伝統芸能など、偏ることのないよう事業計画を行い、鑑賞の機会や参加の機会を予定通りに提供できた。</p> <p>（主な事業の組み立て）</p> <p>○地域拠点事業の活用 東京フィルや文学座のネットワークやノウハウを活用し、地域に根付いた公演やワークショップを開催した。保育施設や地域の公共施設へプロのアーティストと出向き、積極的に交流し、プロの演奏家と市民の積極的な交流を図った。</p> <p>○市民協働事業の推進 地元文化団体や指導者等と連携し、普段、芸術文化に携わる機会が少ないと思われる世代に、学校アウトリーチやホワイエコンサートなど、親しみやすい形式を工夫し、芸術文化に触れる機会を提供した。</p> <p>○ジュニア育成事業の推進 未来を担うジュニア世代の情操と人材育成のために、芸術文化に親しむ場と技術向上の機会を提供した。また、プロのアーティストと共演する機会を提供し、出演者等との交流や仲間づくりを推進した。</p> <p>○幅広い鑑賞事業 乳幼児から高齢者、障害を持った人や外国人等、さまざまな人がストレスなく芸術文化を楽しみながら鑑賞できるよう、様々なジャンルの公演事業を行った。また、青少年招待事業により、家庭環境や経済的にホールへ来ることができない人を支援した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>芸術文化活動が本来備える「爽快感」や「達成感」のほか、「他者との連帯感等の精神的充足」という観点に加え、社会的意義として、青少年の心身の健全な発達を促し、コミュニケーション能力の育成や多様な価値観を認めあう機会を与えることを念頭に事業を展開した。</p> <p>主に文学座の俳優による、演劇的手法によるコミュニケーションに特化したワークショップにより、他者の心情を思いやる重要性を学んだ。また、同様な悩みを持つ子育て世代や同世代が集う催しを実施することで、新たなコミュニティや仲間づくりに寄与することができた。また、歌舞伎や狂言など、体験する機会の少ないジャンルである伝統芸能のワークショップを開催し、受け継がれてきた伝統芸能の奥深さを知る機会を提供した。「リリックホールコーラスフェスティバル」や「リリックジュニアフェスティバル」を実施することで、高齢者や子どもたちの同世代が集う場を提供し、それぞれに活発な交流の場を提供することができた。</p> <p>芸術文化の主体は個人であるが、ひとたび表現や交流の場を得た場合には、他の人々の心に働きかけ、ひいては社会に広がっていく大きな力となることを様々な事業体験から発信することができた。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

各事業について、次のような指標を設定した。

(公演事業)

○0歳～19歳までに特化した入場率・満足度の前年度からの10%アップ

0歳～19歳までの入場率は前年度の12.5%に対して、今年度も同率の12.5%となり、目標を達成できなかった。事業単位では、増えている事業もあるが、やはり伝統芸能やクラシック公演において興味をもってもらえないという点で大きな課題となった。満足度も前年度93.7%に対して、今年度は92.6%となり、こちらも目標を達成することができなかった。

○60歳～80歳以上までに特化した入場率・満足度の前年度からの10%アップ

60歳～80歳以上の入場率は前年度の58.3%に対して、今年度は51.6%となり、目標を達成できなかった。満足度は前年度93.6%に対して、今年度は92.1%となり、こちらも目標を達成できなかった。

○友の会の新規会員の加入率の前年度からの10%アップ

前年度の3月末の会員数1,179名（継続会員）に対して、今年度の新規会員数は188名（会員数1,171名3/1現在）となり、新規会員の割合は15.9%となり、目標を達成できた。

(人材育成事業)

○ジュニア世代における将来における芸術文化活動への自主的参加希望率80%以上を実現させる。

今年度のジュニア育成事業（長岡少年少女合唱団育成事業・ジュニアミュージカル事業・ジュニアストリングオーケストラ育成事業）参加者における、希望率は92.1%となり、目標を達成できた。当財団では、ジュニア世代の芸術文化活動による人材育成事業に大きく力を注いでおり、プログラムを提供する側にとっても、励みになる結果となった。

○シニア世代における芸術文化活動に触れる機会の提供満足度80%以上を実現させる。

当財団の事業におけるシニア世代（60歳～80歳代）の、芸術文化活動の提供満足度は76%となり、わずかに目標に届かなかった。

(普及啓発事業)

○当該事業を体験した参加者を対象にアンケートを実施し、事業を通じて芸術文化を身近に感じるようになった割合70%を実現させる。

当該事業におけるアンケートによる設問を設け調査を実施したところ、93.8%の来場者が「芸術文化を身近に感じるようになった」と答えた。この結果はホールに足を運ぶことの少ない方が、東京フィルコミュニティコンサートなどに来場いただけただけが大きく、事業の目的からも、一定の成果があったと捉えている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

助成対象事業における事業期間については、公演事業で 17 日間、人材養成事業で 154 日間、普及啓発事業で 13 日間を要し、合計 184 日間の期間において、事業を展開した。これは、公演のリハーサルや人材養成事業による練習日等をカウントしている数字ではあるが、楽器、合唱、演劇、ミュージカル、伝統芸能など、様々な参加型事業により、芸術文化活動の持つ魅力を地域に還元することができた。新型コロナウイルスによる影響により、事業の一部を中止せざるを得ない状況が発生したが、概ね順調に事業が進行したものと考えられる。

事業費（総支出）に関しては、補助金要望時の計上として公演事業／14,660(千円)、人材養成事業／8,629(千円)、普及啓発事業／11,871(千円)で、助成対象事業経費として合計 35,160(千円)を見込んでいた。

最終的な決算事業費（総支出）は、公演事業／13,715(千円)、人材養成事業／6,571(千円)、普及啓発事業／10,133(千円)となり、合計 30,419(千円)となった。事業費に関しても、新型コロナウイルスの影響により、計画していた事業の実施ができず、要望時よりも減額となっているが、概ね当初の計画のとおり予算を執行できたと考えられる。

収入（総収入）に関しては、補助金要望時の計上として公演事業／8,640(千円)、人材養成事業／1,835(千円)、普及啓発事業／1,800(千円)で、助成対象事業収入として合計 12,275(千円)を見込んでいた。

最終的な決算収入（総収入）は、公演事業／8,845(千円)、人材養成事業／1,525(千円)、普及啓発事業／1,263(千円)となり、合計 11,633(千円)となった。要望時と比較して 642(千円)の減収となった。

【公演事業】

全体的には、ほぼ予定どおり事業を展開できた。市民参加型の事業や地元出身アーティストの演奏会も組み込みつつ、地域文化の拠点施設としての役割も念頭に置きながら、幅広いジャンルの公演を実施した。

【人材養成事業】

新型コロナウイルスの影響により、3月に行う予定であったジュニア育成事業等の成果発表が実施できないイレギュラーは生じたが、参加者の練習参加率は高く、助成金の補助により、魅力的な「学びの場」を提供することができた。

【普及啓発事業】

芸術文化に馴染みのない市民でも、参加しやすい形態を模索し、歌舞伎の初心者でもわかりやすい解説を交えた公演や、気軽に参加できるハワイエコンサート、周囲を気にせずに参加可能な0歳からのコンサートなどを通じて、芸術に触れることの楽しさを伝えることや、裾野の拡大を図ることを意識して事業を展開した。

ホールのコンセプトである「みんなのホール」を意識した、地元の芸術愛好者との「協働」がキーになっており、令和3年度のリックホール開館25周年に向けて、育成事業の参加者や地元のステークホルダーとの良好な関係をさらに強固なものにすることができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

長岡リリックホールは、文化の拠点施設として信濃川を望む文化の発祥地・千秋が原ふるさとの森に位置し、周辺には美術館や大学、産業交流会館がある。各施設と連携して事業交流を行い、人と人とが交流し、相乗効果を生み出している。

令和元年度は、新しい時代において、新しい長岡の芸術文化を築く取組をさらに前へと進めていくため、幅広い年齢層の市民に多彩なジャンルの公演を提供すると共に、青少年をはじめとする人材育成事業に取り組んだ。

「公演事業」では、地元出身者で音楽活動を続けているアーティストを積極的に取り上げた。ソプラノ歌手の鈴木愛美は、数々のコンクール等で受賞を重ね、ウィーンで研鑽を積み、演奏活動を続けている。演奏会のタイミングで、CDをリリースすることが決まっており、発売記念と銘打ってリサイタルを開催した。地元出身者のリサイタルを応援したいという地元の合唱団体等の協力を得ながら、満席の公演となり、演奏活動の支援につながった。また、15歳にして全日本ビバホール・チェロコンクールで最年少優勝を果たし、2010年のミュンヘン国際音楽コンクールで2位を受賞、新潟から世界へ羽ばたいたチェリストの横坂源の演奏活動20周年を記念したリサイタルを開催。本県出身者であることから、地元の新聞社に特集記事として取り上げていただくなどの働きかけを行い、集客に努めた。リサイタルでは、幼い頃からの成長を見守るファンも多く、高い技術を駆使した演奏に高い評価を得た。

狂言師の野村万作・萬斎による狂言会では、本公演の前に小学生を対象に狂言ワークショップを開催。狂言のセリフや所作を体験する内容を組み込んで実施した。600年の歴史を経て洗練された古典芸能「狂言」を、舞台鑑賞や知識として理解するだけでなく、本質的な表現することの楽しさを体感し、将来的な芸術文化に関わる人材の啓発と育成の場とした。題材とした「柿山伏」は、小学6年生の教科書にも取り上げられている演目とあって、学校関係者からも授業の参考になると好評を得ている。

「人材育成事業」では、文学座演劇活性化事業として、近隣の長岡造形大学と連携し、学生を対象に舞台美術ワークショップを実施。「台本のイメージをいかに形にするか」という課題の下、講師と充分に交流しながら、活発な意見交換ができ好評を得ている。また、俳優の渡辺徹を講師に迎え、演劇の手法を活用したワークショップにより、コミュニケーション能力と想像力を育んだほか、幼稚園や保育園の児童を対象に、文学座所属俳優による朗読会を実施するなど、プロの俳優と市民が交流しながら、参加者同士でも新しいつながりが生まれている。

新規の人材育成事業として開催した「仲道郁代プロデュース『三善晃記念 響き合うピアノ』」では、ピアノ演奏の技能向上のみではなく、音楽による社会に資する人材を育成するための講座やワークショップなども併設して開催し、受講者の意識改革を促した。新型コロナウイルスの影響により、受講者の成果発表会は中止となったが、参加者各々が得るものがあつたようで、新しい発見があつたと感想を寄せている。

「普及啓発事業」では、「東京フィルコミュニティコンサート」として、コミュニティセンターや隣接する美術館、合併地域を中心に広域の8か所で開催した。各会場での集客や会場準備などをそれぞれの地域の住民と連携して行っており、会場に応じた曲目で首席奏者を中心に演奏し、クラシック音楽の垣根をできるだけ低くしながら相互交流を図った。

その他にも、0歳からのコンサートや歌舞伎初心者を対象とした公演、学校アウトリーチなどの実施により芸術文化の普及に努め、新しい観客層の取り込みを図った。

このように、地域住民や関係機関等と連携して市民の幅広いニーズに応え、地域の芸術文化への関心を喚起し、同時に未来を見据えた人材育成に努めた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【長岡リリックホールの地域文化芸術への貢献】

○地域拠点事業と地元アーティストの活用

東京フィルハーモニー交響楽団や劇団文学座のネットワークやノウハウの活用や、地元アーティストの協力により、地域に根付いた公演やワークショップを開催。保育施設や学校、福祉施設等へアーティストと出向き、積極的に交流し、教育現場や福祉現場、地域の課題解決に貢献した。アウトリーチワークショップでは、地元で活躍するアーティストを起用し、子供たちに身近に音楽活動を行っている目標となるような人材を講師としている。単なる鑑賞型のコンサートではなく、体験型の内容を実施することで、より音楽に親しみを持てるように工夫をし、会場については、体育館などの広い場所ではなく、音楽室などの普段、音楽に慣れ親しんでいる同じ場所でプロの演奏を聴くことで、その違いを演出している。学校アウトリーチ事業を経験し、興味をもった児童・生徒が、当ホールのジュニア育成事業に参加するなどの相乗効果を生みだした。

○市民協働事業の推進

地域で活動しているコーラス愛好団体が一堂に会するコーラスの祭典「コーラスフェスティバル」は令和元年度で18回目を迎え、35団体551人が参加。出演する以外にも場内係や受付を参加者が持ち回りで担当し、コーラスを通じて交流の輪を広げると共に、合唱による町づくりの一翼を担っている。また、長岡市内で音楽を学んでいる小学生から高校生が日頃の練習の成果を発表する「リリックジュニアフェスティバル」もオーディションにより選出された、ピアノ、弦楽器、管楽器などの分野で演奏を行った。地域の子どもたちにとっては目標となる催しになっており、また、演奏ジャンルの異なる子ども同士の交流により、新しい発見や互いに刺激を受けることで成長の場となっている。運営には、地元の音楽指導者で構成される実行委員会の協力があり、場内係や受付、当日の進行を受け持ち、市民の手による文化発信事業の先進事例となっている。

○ジュニア育成事業の推進

未来を担うジュニア世代の情操と人材育成のために、芸術文化に親しむ場と技術向上の機会を提供する。当ホールでは、合唱、ミュージカル、弦楽器の3つのジャンルで事業を展開している。それぞれの分野で地元の講師と連携を図りながら、長岡市内外の催しに参加するなど実績を重ねてきた。特に弦楽器の分野では、令和元年より長岡市に誘致した「アフィニス夏の音楽祭」（日本で唯一のセミナー音楽祭）の開催により、市民のクラシック音楽に対する意識付けを強化したいねらいもあり、重要な役割を担っている。今後の同音楽祭では、世界的な演奏家や国内屈指の演奏家と共演することを視野に入れ、参加年齢の幅を広げ、小学1年生から参加できるようにクラス分けを行うなど、事業の拡大と実力アップを進めている。

○幅広い鑑賞事業

乳幼児から高齢者、障害を持った人や外国人等、さまざまな人がストレスなく芸術文化を楽しみながら鑑賞できる環境を整えると共に、家庭環境や経済的にホールへ来ることができない人を支援するための青少年招待事業として、主催する公演に市内の小学校4年生から高校生まで（招待者：8公演333人）の無料招待を行い、希望の公演を楽しんでもらうことができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

（職員の雇用状況）

- ・ 正規職員 8 名と長岡市派遣職員 3 名の計 11 名について、全職員 30 名に対する割合は 36.7%となっている。正規職員については、勤続 18 年 3 名など 10 年以上勤続する職員が 6 名となっており、臨時職員については、平成 30 年 7 月の長岡市立劇場リニューアルオープンに伴って新規雇用した職員が多く、また、平成 31 年 3 月に定年退職した職員を補充したことから、平均勤続年数が短くなっている。

（人材の育成状況）

- ・ 勤続経験を積むことにより、事業運営や施設管理のノウハウの蓄積に努めている。また、総務課、事業課、長岡市立劇場の 3 課の異動を経験することにより、組織全体の業務把握ができる人材を育成している。
- ・ 各種派遣研修（アートマネジメント研修会等）を継続実施している。

（今後の計画）

- ・ 経験の浅い職員については、業務別の職場内研修を実施することで、組織全体の業務把握を進めていく。
- ・ 各種派遣研修は、正規職員の熟練を図るため、専門的な研修への派遣を含め継続実施していく。
- ・ アートマネジメント研修をホール内で実施し、スタッフの意識向上と運営方針の浸透を図っていく。
- ・ 業務ごとに主任・副任を設け、責任をもって継続実施することにより、モチベーションの向上と実施スキルの継承を図っていく。
- ・ 人事考課による個人の特性に応じた育成を行うほか、正規職員については業績を確認して定期昇給を行っていく。

（劇場・音楽堂館のネットワークの形成）

- ・ 事業の組み立てについては、県内の他の文化施設への情報収集を行うことにより、同種の企画が同時期に被らないように、配慮している。

（財源の確保）

- ・ 協賛金については、年によって協賛依頼を行う公演の数が異なることから、協賛者数や協賛金額について目立った傾向は見られないが、1 社当たりの協賛金額や、1 公演当たりの協賛金額は年々増加していることから、当財団事業への企業協賛が定着してきていることが伺える。

（PDCAのサイクル）

- ・ 事業の実施を受けて、事業によって期待する成果が得られたかどうか、市民がサービスの内容や質に満足しているかどうか、円滑な運営が行われているかどうか、経営の効率化が図られているかどうか、といった観点・視点から点検を行い、改善を図っている。その過程を通して、課題を把握し、具体的な改善策を検討していくことで機能強化につなげており、組織として向上してきている。定期的に運営会議を設け、課を越えて、情報共有や問題解決に努めている。